

佐土根 範次先生を偲んで

西村 政信（正会員、大同工業大学 講師）

平成19年10月30日大学のメールにて先生のご逝去を知り、大変驚いた。春ころより学会等に参加されなくなり、どうしたのかなと思っていたところ、体調が良くないとお聞きした。一度様子を見に行こうと考えていたのに、機会を逸したのは慙愧に耐えない。ご遺族のお話では、高齢ながら、最後まで自分のことは自分で何でもやる人で、前日までは普通に生活をされていたそうである。前立腺癌に罹り、放射線治療をしていたため、体がだるいと言っていたそうであるが、急に病状が悪くなり亡くなられたということである。

先生の趣味はテニスと写真である。太平洋戦争で足を負傷されたため、足が少し不自由であったが、テニスは晩年にも楽しんでおられた。

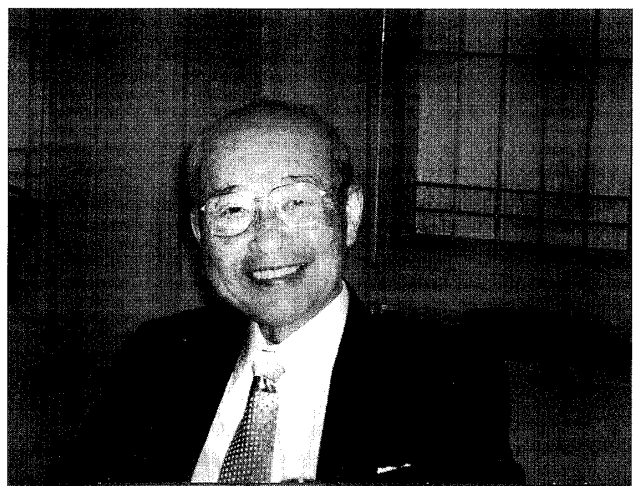
写真はプロ級の腕前であり、自分で撮影した照明施設のカラーズライドを沢山所持されておられ、講義や講演に利用されていた。

大同工業大学に着任されて直ぐの、昭和53年に日本色彩学会に入会され、平成4年名誉会員に推戴された。入会と同時に東海支部幹事を勤められ、その後平成4年より東海支部名誉幹事(顧問)となった。

特に、昭和61年から昭和62年には東海支部長(本部副会長)を勤められるなど、長年にわたり日本色彩学会に貢献された。先生が支部長のとき私は東海支部事務局を勤め、先生の真摯な支部運営態度にふれた。また、大学を退職されてからも、学会の役員会やその他の行事にも積極的に参加され、貴重な意見を頂戴し、大変ありがたかった。

先生は私にとって人生と学問の師であり、大変お世話になった。大学を退職後も私のことを心配してくださり、主には電話でしたが、時には大学までこれられて色々な助言をしてくださる優しい先生であった。

先生のご専門は放射の応用、照明工学、および色彩学である。元々は照明工学が専門ではあったが、大同工業大学に着任されてからは色彩関係の研究にも着手された。大学ではおもに、照明色彩環境に関する研究をされた。



佐土根範次氏(1920年9月29日～2007年10月30日)

平成5年の東海地方におけるあかりの日記念講演では「照明光色と色彩環境とカラー写真」と題して講演されたが、この講演で先生の学問の集大成を一般の人に分かり易く説明されたと感じた。

昭和53年より平成3年まで大同工業大学にて教授を勤められた。先生は、常に周りの人達に感謝の気持ちを持ち気配りの細やかな謙虚な方であった。また、自分には厳しいが、学生や大学教職員に対しては、いつも笑顔で優しく接せられる先生であった。

大同工業大学佐土根研究室等の出身者で構成する同窓会の燎会にも毎年参加し、卒業生の成長を目にし、卒業生と語り合うことを楽しみにしておられた。

佐土根先生からいただいた多くの教えを受け継ぎ、学会の発展に少しでも貢献できるようにお誓いし、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌